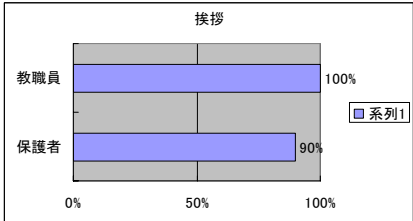


(1) 心づくり

	①テーマ	「心づくり」 Aいじめについて (人権教育として取り組む)				
	②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への確に伝えることと小中連携して取り組みを進める。</li> <li>・いじめを許さない環境作りを進める。</li> </ul>				
	③今年度重点的な取り組み		④進捗状況			
	<p><b>仲間と共に育つ豊かな心を育てる</b></p> <p><b>いじめ不登校ゼロへの取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめアンケート (生活アンケートの実施)、事象への組織的な指導をする。</li> <li>○各学年での分野別人権教材の学習 (年間指導計画による) をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめアンケート7月上旬実施。</li> <li>○結果を全校で交流して組織的継続的な取り組みを、保護者とも連携して継続的に取り組んでいる。</li> <li>○全校で学習状況を交流し検証意見交換した。</li> </ul>			
自己評価	⑤自己診断	小学校	年度	項目	番号	A+B
		児童	前年度	先生たちは、いじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる。	う	87%
				先生たちは、校内暴力など私たちが困っていることについてすばやく対応してくれる。	い	81%
		保護者	前年度	(3-2)先生たちは、いじめやこまっていることについてきちんと助けてくれる	あ	87%
				学校は、いじめなど児童が困っていることに真剣に対応している。	い	71%
		教職員	前年度	(3-2)学校はいじめや子どもが困っていることについてしっかりと取り組んでいる。	あ	67.1%
				学校は、いじめなど児童が困っていることに真剣に対応している。児童が困っていることについて真剣に対応している。	い	97%
		児童	本年度	(3-2)先生たちは、いじめやこまっていることについてしっかりと取り組んでいる。	あ	77.3%
				学校は、いじめなど児童が困っていることに真剣に対応している。	い	97%
		保護者	本年度	(3-2)先生たちは、いじめやこまっていることについてきちんと助けてくれる	あ	87%
先生たちは、校内暴力など私たちが困っていることについてすばやく対応してくれる。	い			81%		
教職員	本年度	(3-2)学校はいじめや子どもが困っていることについてしっかりと取り組んでいる。	あ	67.1%		
		学校は、いじめなど児童が困っていることに真剣に対応している。児童が困っていることについて真剣に対応している。	い	97%		
<p>児童: 前年度 あ 87%, い 81%; 本年度 あ 87%, い 81%</p> <p>保護者: 前年度 あ 67%, い 71%; 本年度 あ 67.1%, い 97%</p> <p>教職員: 前年度 あ 77.3%, い 97%; 本年度 あ 77.3%, い 97%</p>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イジメへの取り組みについてプラス評価 (概ねを含む) は、児童87%、保護者67.1%である。昨年度 (児：先生たちはいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる。保：学校は、いじめなど児童が困っていることに真剣に対応している。) については、児童87%、保護者71%である。</li> <li>・昨年度との比較をみると、児童については、同じであり、数値の上昇が見られていない。これは、子どもたちについて取り組んでいる内容が昨年度と変わっていないか子どもたちに印象づける具体的でいい取り組みができきれていなかったためと考えられる。</li> <li>・保護者については、昨年度より数値が下がっており、期待に応え切れていない評価となっている。</li> </ul>						
<p>⑥改善の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への教育説明会や学校の通信の配布、学級からの発信等おこなっているが、なかなか伝わっていない現状がある。伝え方をもう一度見直さなければならない。学習及び生活指導上の問題が起きた時、初期対応が特に大切である。事実確認及び情報の共有の徹底、チームとして迅速に適切に対応していくことを徹底して推し進める必要がある。</li> <li>・「いじめ」防止プログラム学習を組織的にとりくむ。</li> <li>・児童会の活動等児童同士が話し合える環境作りを進め、児童による「いじめ」防止のとりくみを展開する。</li> <li>・「いじめ発見アンケート」や投書箱の複数設置等実態把握に努め、組織的な対応を図る。</li> </ul>						
<p>学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形式的に「謝らせて終わる」指導ではなく、いじめ行為 (言動を含めて) の重さをしっかりと考えさせる等子どもの心に響く、また当事者が納得できる指導や対応にさらに努めてほしい。なお、このとりくみは小学校に限らず保幼小中一貫してとりくんでもらいたい。</li> <li>・こうしたとりくみを子どもや保護者にしっかりと伝えて行く努力が必要である。</li> </ul>						

①テーマ	「心づくり」 B 規律について																																			
②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への確に伝えることと小中連携して取り組みを進める。</li> <li>・指導の統一性</li> </ul>																																			
③今年度重点的な取り組み			④進捗状況																																	
<p>仲間と共に育つ豊かな心を育てる</p> <p>あいさつができる子どもを育てる（つながるとりくみ）</p> <p>○朝食アンケート学校生活アンケートの実施</p> <p>○児童会活動を生かし、子どもの自主性に基づいた専門部活動を実施する。</p> <p>○きめ細かな登校指導を実施する。</p>			<p>○朝食アンケート学校生活アンケートの実施と集約、給食だよりによる公開と指導。</p> <p>○学期ごとに専門部（児童の委員会活動）の活動を決めて児童会全体で取り組むシステムを作る。</p> <p>○児童会行事を継続実施している。</p> <p>「みんなで仲良く遊ぼう」などの行事</p> <p>○また、登校指導として従来の学期はじめの朝の登校指導を発展させ2学期より月初めの朝の1週間登校指導をしている。</p> <p>○地区委員さん参加の地区児童会を実施した。</p>																																	
自己評価	⑤自己診断	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小学校</th> <th>年度</th> <th>項目</th> <th>番号</th> <th>A+B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">児童</td> <td>前年度</td> <td>先生たちは、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。</td> <td>い</td> <td>82%</td> </tr> <tr> <td>本年度</td> <td>(3-3)先生たちは学習ルールや生活のきまりをしっかりと教えてくれる</td> <td>あ</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">保護者</td> <td>前年度</td> <td>学校は、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。</td> <td>い</td> <td>69%</td> </tr> <tr> <td>本年度</td> <td>(3-3)学校は学習や生活の決まりをしっかりと指導している。</td> <td>あ</td> <td>77%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">教職員</td> <td>前年度</td> <td>学校は、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。</td> <td>い</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>本年度</td> <td>(3-3)学校は学習のルールや生活のきまりをしっかりと指導できている。</td> <td>あ</td> <td>68.2%</td> </tr> </tbody> </table>			小学校	年度	項目	番号	A+B	児童	前年度	先生たちは、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。	い	82%	本年度	(3-3)先生たちは学習ルールや生活のきまりをしっかりと教えてくれる	あ	90%	保護者	前年度	学校は、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。	い	69%	本年度	(3-3)学校は学習や生活の決まりをしっかりと指導している。	あ	77%	教職員	前年度	学校は、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。	い	75%	本年度	(3-3)学校は学習のルールや生活のきまりをしっかりと指導できている。	あ	68.2%
		小学校	年度	項目	番号	A+B																														
児童	前年度	先生たちは、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。	い	82%																																
	本年度	(3-3)先生たちは学習ルールや生活のきまりをしっかりと教えてくれる	あ	90%																																
保護者	前年度	学校は、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。	い	69%																																
	本年度	(3-3)学校は学習や生活の決まりをしっかりと指導している。	あ	77%																																
教職員	前年度	学校は、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。	い	75%																																
	本年度	(3-3)学校は学習のルールや生活のきまりをしっかりと指導できている。	あ	68.2%																																
<p>・生活規律についてプラスの評価（概ねを含む）は、児童90%、保護者77%である。昨年度（児：先生たちは、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。保：学校は、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。）については、児童82%、保護者69%である。</p> <p>・対昨年度比較で、児童・保護者とも8%上昇しており、児童会の挨拶運動や「聴き合い 学び合い 響き合い」などの具体的なとりくみが評価されてきていると考えられる。</p>																																				
⑥改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も具体的なとりくみを続け、班や学級での話し合いを基にした児童会活動等、子どもたちが主体的に取り組む力をつけていくことが大切である。</li> <li>・指導の統一性を図り、組織的なとりくみを展開する。</li> <li>・PTA 地区委員等と協力して登下校指導を充実する。</li> <li>・テレビの見方や時間について基本的なルールが身につくよう家庭と連携して取り組むとともに、児童会活動等を通して児童自身が考えたり工夫したりするよう働きかけていく。</li> <li>・学校と家庭の連携の下、家庭学習の習慣の確立に向けとりくんでいく。</li> </ul>																																			
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、保護者、地域が協同して取り組むことによって成果が上がる。こうした取り組みを継続してほしい。</li> <li>・児童に主体性を持たせる取り組みは、児童の意欲を高める。こうした取り組みを生活や行動に関わる分野で、そしてさらに他の分野でも生かしてほしい。</li> </ul>																																			

①テーマ	「心づくり」 C 挨拶について										
②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への的確に伝えることと小中連携して取り組みを進める。</li> <li>・指導の統一性</li> </ul>										
③今年度重点的な取り組み		④進捗状況									
自己評価	<p>⑤自己診断</p> <table border="1" data-bbox="247 636 1412 862"> <thead> <tr> <th>小学校 児童</th> <th>項目</th> <th>A+B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>(1-5)児童会や生徒会が中心になりとりくんでいる朝の挨拶運動等は子どもたちの意識を高めている。</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>(1-5)学校は、小中が連携してとりくんでいる朝の挨拶運動等で子どもたちの意識を高めることができる。</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>・朝の挨拶運動は小中の児童会・生徒会が連携してとりくんでいることであり、他の児童生徒へのアピール度も高く挨拶励行の手本となっている。</p> <p>・昨年度の提言を受け、具体的なとりくみとして展開してきたことであり、挨拶をする児童が増えてきていることは確かではある。小学生より中学生において効果は顕著であるようではあるが、そのこともまた小学生にプラスの影響をもたらしていると思われる。</p>		小学校 児童	項目	A+B	保護者	(1-5)児童会や生徒会が中心になりとりくんでいる朝の挨拶運動等は子どもたちの意識を高めている。	90%	教職員	(1-5)学校は、小中が連携してとりくんでいる朝の挨拶運動等で子どもたちの意識を高めることができる。	100%
	小学校 児童	項目	A+B								
保護者	(1-5)児童会や生徒会が中心になりとりくんでいる朝の挨拶運動等は子どもたちの意識を高めている。	90%									
教職員	(1-5)学校は、小中が連携してとりくんでいる朝の挨拶運動等で子どもたちの意識を高めることができる。	100%									
学校関係者評価	<p>⑥改善の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と保護者で情報を共有し、共同で事に当たるとい姿勢や学校が保護者と連携する姿勢で、共に盛り上げていくとりくみが必要である。</li> <li>・児童会・生徒会の連携したとりくみを継続していく。</li> <li>・朝の挨拶運動等への教職員の関わりを充実する。</li> <li>・挨拶励行をPTAと協力してとりくむ。</li> </ul>										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中が連携して取り組んで成果が上がっている。今後もこのとりくみを継続してほしい。</li> <li>・児童に主体性を持たせる取り組みは、児童の意欲を高める。こうした取り組みを生活や行動に関わる分野で、そしてさらに他の分野でも生かしてほしい。</li> </ul>										

①テーマ	「心づくり」 D 悩み・相談について																															
②昨年の指摘																																
③今年度重点的な取り組み			④進捗状況																													
<p>仲間と共に育つ豊かな心を育てる</p> <p>一人ひとりの思いをみんなで考え、話し合える集団を作る。</p>			<p>○「トトロの部屋」等相談活動の継続</p> <p>○該当児童との話し合いや学級での話し合い活動を活発にする。</p>																													
自己評価	小学校	項目		番号	A+B																											
	児童	前年度	先生たちは、悩みや相談に親身になって応じてくれる。	う	76%																											
			担任の先生以外にも、悩みや相談について、保健室やトトロの部屋などで気軽に相談できる先生がいる。	い	59%																											
		本年度	(3-1) なやみや体のことを相談しやすい先生が学校にいる。	あ	72%																											
	保護者	前年度	学校は、悩みや相談に親身になって応じている。	う	70%																											
			子どもは心身の健康について、気軽に相談できる先生がいる	い	60%																											
		本年度	(3-1) 学校には、悩みや心身の健康等を相談しやすい先生がいる。	あ	66%																											
	教職員	前年度	学校は、悩みや相談に親身になって応じている。	い	96%																											
		本年度	(3-1) 学校は、児童や保護者が悩みや心身の健康等を相談しやすい状況にできている。	あ	95.5%																											
	自己診断	<table border="1"> <caption>児童 (Children)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>前年度</th> <th>本年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あ</td> <td>76%</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>い</td> <td>59%</td> <td>59%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>保護者 (Guardians)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>前年度</th> <th>本年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あ</td> <td>70%</td> <td>66%</td> </tr> <tr> <td>い</td> <td>60%</td> <td>60%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>教職員 (Staff)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>前年度</th> <th>本年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あ</td> <td>96%</td> <td>95.5%</td> </tr> <tr> <td>い</td> <td>96%</td> <td>96%</td> </tr> </tbody> </table>					Category	前年度	本年度	あ	76%	72%	い	59%	59%	Category	前年度	本年度	あ	70%	66%	い	60%	60%	Category	前年度	本年度	あ	96%	95.5%	い	96%
Category		前年度	本年度																													
あ		76%	72%																													
い		59%	59%																													
Category		前年度	本年度																													
あ		70%	66%																													
い		60%	60%																													
Category		前年度	本年度																													
あ		96%	95.5%																													
い		96%	96%																													
<p>・悩み・相談の学校の取り組みについて、プラス評価（概ねを含む）は、児童72%、保護者66%となっている。昨年度（児：先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる。保：学校は、悩みや相談に親身になって応じている。）については、児童76%、保護者70%である。児童・保護者とも数値が下がっており、学校に対する見方が厳しくなっている。</p> <p>・しかし、教職員の自己評価は昨年とほぼ同様の95.5%であり、児童・保護者とのギャップが見受けられる。教職員は真剣に対応しているのだが、「相談しやすい」という状況には至っていないということであろう。</p> <p>・昨年度も、担任以外に気軽に相談できる先生がいるかとの問いへは児童59%、保護者60%であり厳しい評価である。</p> <p>・「相談しやすい」「気軽に相談できる」という問い方が適切であるかどうかは検討の余地はあるものの、児童、保護者とも抵抗感はあるということだろう。</p>																																
改善の方向性	<p>・子どもや親の思いを日常的に受けとめる窓口を分かりやすくして、通信や連絡帳、ホームページなどの通信手段や電話連絡・家庭訪問など、よりていねいなとりくみをしていくことが必要である。</p> <p>・児童及び保護者への働きかけを意識的・組織的に行うとりくみを進める。</p> <p>・保健室や「トトロの部屋」等の活用を広報する。</p> <p>・「相談しやすい」状況づくりを教育委員会等外部関係機関と協力して進める。</p>																															
学校関係者評価	<p>・子どもが話しやすい雰囲気作りを学校はもっと進める努力が必要である。</p> <p>・教職員は常に子ども一人ひとりを見つめ、細かく観察するなかから、子どもの悩みを把握できるように積極的に働きかける努力をしてほしい。</p>																															

①テーマ	「頭づくり」A 学習指導について																																		
②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習のPRが課題</li> <li>・食育のアンケートの進捗状況</li> </ul>																																		
③今年度重点的な取り組み		④進捗状況																																	
<p><b>基礎・基本の定着と学力アップを目指す</b> (学力向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語力の向上研究授業を実施する。(年3回予定)</li> <li>○文章の読み取る力の向上</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学力診断テストと学力実態分析を実施する。</li> <li>○班活動と学習ルールの確立に向けて取り組む。</li> <li>○朝の学習タイムの実施時間 8:35-8:50</li> </ul> <p>朝計算 水 木 朝読書 月 金 学級担任とともに実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年の音読カード使用</li> <li>各学年で音読カードを作成し宿題として実施する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○英語活動の充実</li> </ul>		<p>大阪教育大学教授を迎えての授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○説明文の読み取りに関する公開授業 (6月27日2年 11月28日6年1月30日3年)</li> </ul> <p>一人読み(自分で読み進め考えをもつ)による自分の考えを交流できるような聞く力、話す力をつけていく取り組みの継続。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○12月中旬に分析結果を公表する。</li> <li>○学習ルールの徹底を継続中</li> <li>・最後まで話を聞く。・手を挙げて発表する。・わからない時は意志表示する。・仲間と関わる方法や言葉について指導する。チャイムで行動する。など継続指導中です。</li> <li>・学級担任と朝計算担当の教員で実施する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○46冊読むと、しおりをわたして励ましている。2,3,4年生は図書館をよく利用する。それに比べると高学年はやや少ない。(好きな子はよく利用するが)</li> <li>○音読を習慣化するためにほぼ毎日取り組んでいる学年が多い。保護者にもよく協力してもらって効果が上がっている。</li> <li>○夏休みの学習室開放、業間・昼休みの個別補充学習等に取り組んでいる。</li> <li>○担任とALTによるTTによる英語活動の充実。</li> </ul>																																	
自己評価	⑤自己診断	小学校	項目	番号	A+B																														
	児童	前年度	授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。	お	63.0%																														
			先生たちは、教え方に、いろいろな工夫をしている。	え	85.0%																														
	児童	本年度	授業は分かりやすく楽しい。	う	83.0%																														
			(2-2)国語の授業はよく分かる。	い	85.7%																														
	保護者	前年度	(2-1)算数の授業はよく分かる。	あ	90.0%																														
			学校は、分かりやすく楽しい授業の工夫を行っている。	う	82.0%																														
	保護者	本年度	(2-2)学校は国語力を高めるためにしっかりと取り組んでいる。	い	68.5%																														
			(2-1)学校の算数の少人数指導(分割やTT等)は、学力向上に役立っている。	あ	92.0%																														
	教職員	前年度	到達度の低い児童等に対する学習指導に取り組んでいる。	え	79.0%																														
学校全体として、個に応じた学習指導の工夫をしている。			う	63.0%																															
教職員	本年度	(2-2)学校は、児童の国語力を効果的に高めるとりくみができている。	い	68.2%																															
		(2-1)学校は、学校の算数の少人数指導(分割やTT等)で児童の学力を効果的に向上させている。	あ	100.0%																															
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="268 1411 619 1599"> <p>児童</p> <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>あ</td><td>90.0%</td></tr> <tr><td>い</td><td>85.7%</td></tr> <tr><td>う</td><td>83.0%</td></tr> <tr><td>え</td><td>85.0%</td></tr> <tr><td>お</td><td>63.0%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="635 1411 986 1599"> <p>保護者</p> <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>あ</td><td>92.0%</td></tr> <tr><td>い</td><td>68.5%</td></tr> <tr><td>う</td><td>82.0%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="1002 1411 1353 1599"> <p>教職員</p> <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>あ</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>い</td><td>68.2%</td></tr> <tr><td>う</td><td>63.0%</td></tr> <tr><td>え</td><td>79.0%</td></tr> </table> </div> </div>						評価	割合	あ	90.0%	い	85.7%	う	83.0%	え	85.0%	お	63.0%	評価	割合	あ	92.0%	い	68.5%	う	82.0%	評価	割合	あ	100.0%	い	68.2%	う	63.0%	え	79.0%
評価	割合																																		
あ	90.0%																																		
い	85.7%																																		
う	83.0%																																		
え	85.0%																																		
お	63.0%																																		
評価	割合																																		
あ	92.0%																																		
い	68.5%																																		
う	82.0%																																		
評価	割合																																		
あ	100.0%																																		
い	68.2%																																		
う	63.0%																																		
え	79.0%																																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の少人数指導の効果の評価は、保護者も児童も50%強が「とてもそう思う」。プラス評価(概ねを含む)は、90%を越え、高い評価をしている。今後とも、保護者のニーズや児童の実態に合わせた指導が必要である。また、児童の「そう思わない」の2%(5人)は、今後の詳しい分析が必要である。</li> <li>・国語力をしっかりと高めるべくとりくめているかについては、児童は50%強が「とてもそう思う」、概ねプラス評価が85%を越えている。しかし保護者の概ねプラス評価は68%で、児童とのギャップが大きい。さらに、保護者の「とてもそう思う」は13%しかない。</li> <li>・算数は、保護者に学校の指導方向を理解しやすくさせてきたと考えられるが、国語は、不十分と言わざるを得ない。学校全体の「国語教育」のねらい、カリキュラム、とりくみが保護者に見えにくい表れと考える。</li> </ul>																																			
⑥改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上は、本校の最重要課題の一つであり、具体的なとりくみが急務である。算数科における実績を踏まえて、学校独自のカリキュラム作り診断テストの実施、反復学習によるスキルの定着等に取り組む。国語学力実態テストを1学期に行い、実態分析に基づき指導方法・指導内容について検討・改善を行う。漢字や語彙等についてとりたて指導や練習問題を行い、スキルの定着を図る。</li> <li>・日常的学習習慣や宿題、自学自習のとりくみを見直し、個々の力量のアップを目指す。</li> <li>・体験的な学習を意識的に展開し、基礎基本の定着を図る。</li> </ul>																																		



者評価 学校関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の力をどのようにして高めるかについて学校全体の方針が明確になっていないのではないか。</li> <li>・学校の取り組みのポイント、統一した視点、指導方針を保護者にしっかり伝える努力や工夫が必要だ。</li> </ul>
-------------	--

	①テーマ	「頭づくり」B 通知票について																																	
	②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習のPR が課題</li> <li>・食育のアンケートの進捗状況</li> </ul>																																	
	③今年度重点的な取り組み		④進捗状況																																
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種授業参観アンケートを実施する。</li> <li>○学力診断テストと学力実態分析を実施する。</li> <li>○班活動と学習ルールの確立に向けて取り組む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業アンケートによる保護者の評価を授業改善につなげていく。</li> <li>○1 2月中旬に分析結果を公表する。</li> <li>○学習ルールの徹底を継続中 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで話を聞く。・手を挙げて発表する。・わからない時は意志表示する。・仲間と関わる方法や言葉について指導する。チャイムで行動する。など継続指導中です。</li> </ul> </li> </ul>																																
自己評価	⑤自己診断	小学校	項目	番号	A+B																														
		児童	前年度	通知表の学習成績のつけかたは納得できる。	い	82.0%																													
			本年度	(2-3)通知票（あゆみ）で自分のがんばりがよく分かる。	あ	88.5%																													
		保護者	前年度	通知表は、子どもの学力や達成度等を分かりやすく表すよう工夫されている。	う	82.0%																													
				学校は児童が努力したことを適切に評価している。	い	80.0%																													
			本年度	(2-3)通知表の評価や記録は適切で分かりやすい。	あ	72.0%																													
				前年度	評価のあり方について、学年や教科等で話し合う機会がある。	い	79.0%																												
		教職員	本年度	(2-3)学校は、通知表（あゆみ）の評価や記録を児童や保護者にとって適切で分かりやすいものにできている。	あ	81.8%																													
		<table border="1" style="display: none;"> <caption>児童 (Children)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>あ</th><th>い</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>本年度</td><td>88.5%</td><td></td></tr> <tr><td>前年度</td><td></td><td>82.0%</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: none;"> <caption>保護者 (Guardians)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>あ</th><th>い</th><th>う</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>本年度</td><td>72.0%</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>前年度</td><td></td><td>80.0%</td><td>82.0%</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: none;"> <caption>教職員 (Teachers)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>あ</th><th>い</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>本年度</td><td>81.8%</td><td></td></tr> <tr><td>前年度</td><td></td><td>79.0%</td></tr> </tbody> </table>						年度	あ	い	本年度	88.5%		前年度		82.0%	年度	あ	い	う	本年度	72.0%			前年度		80.0%	82.0%	年度	あ	い	本年度	81.8%		前年度
年度	あ	い																																	
本年度	88.5%																																		
前年度		82.0%																																	
年度	あ	い	う																																
本年度	72.0%																																		
前年度		80.0%	82.0%																																
年度	あ	い																																	
本年度	81.8%																																		
前年度		79.0%																																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通知表が適切で分かりやすいかの問いに、「とてもそう思う」「だいたいそう思う」を合わせると、児童は90%弱が分かりやすいと考えている。しかし、「とてもそう思う」「だいたいそう思う」と答えた保護者は70%強で、児童と保護者で通知票に対する評価の違いがある。</li> <li>・また、注目すべきは、児童の60%弱が「とてもそう思う」と考えているのに対して、「とてもそう思う」と答えた保護者はわずか11%ということである。児童は、日頃の担任等との関わりの中で、通知表の評価をおおむね理解しているが、保護者には十分伝わっていないと考えられる。</li> <li>・「学習の内容」については、現在の三段階絶対評価について十分な理解を得られていないとも考えられる。また、「行動の記録」については、学年・学級間で、評価基準の統一が十分には図られていないところが現状としてはあり、保護者の分かり難さの原因となっていると考えられる。</li> </ul>																																			
⑥改善の方向性																																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校として「どこに問題があるのか。」「どのような改善が必要か。」等、必要に応じて再調査する等細部に亘る議論・検討が必要である。</li> <li>・評価資料、評価基準（判断基準）、評価方法等についての研修・交流を深め、統一性を図る。</li> <li>・児童の自己評価力を高めるとりくみを組織的に進める。</li> </ul>																																			
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、評価基準や評価資料についての説明を保護者にもっと明確に示す必要がある。</li> <li>・学校は、児童が頑張ったところ、また励みになる言葉等をしっかり書き、教師が捉えている子どもの実態を知らせると共に子どものやる気を引き出す評価に努めてほしい。</li> </ul>																																		

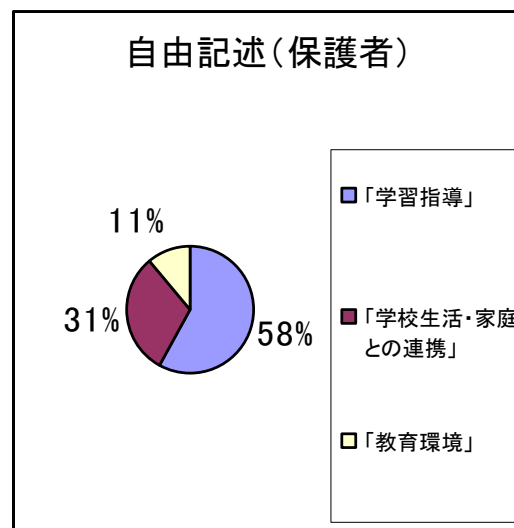
自己評価	①テーマ	A 小中連携について																													
	②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の評価が高いので取り組みを継続。</li> <li>・保護者に小中連携をどう理解してもらっているか。</li> </ul>																													
	③今年度重点的な取り組み		④進捗状況																												
	いきいきスクールの継続 中学校教員による6年英語活動と社会の授業を継続する。 小学校教員による中学校数学に支援を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校教員とALTとの連携による英語活動を実施している。</li> <li>○中学校教員による6年生の社会科授業を実施している。</li> <li>○小学校教員と中学校教員による中学校における数学授業の実施</li> <li>○小中教職員交流会（年3回）の実施。</li> <li>○6年生が中学校で学習し、中学校の授業やクラブ体験を実施している。</li> </ul>																												
	小学校		項目	番号	A+B																										
児童	前年度	中学校の先生に教えてもらうことは、これからの中学校生活に役立つと思う。	い	99.0%																											
	本年度	(1-4) これからもいろいろな中学校の先生に教えてもらいたい。	あ	68.0%																											
保護者	前年度	学校は小中連携等で、教職員の共通認識を深めている。	い	60.0%																											
	本年度	(1-4) 中学校の先生が6年生に社会や英語など教科を教える小中連携は、よいシステムである。	あ	89.0%																											
教職員	前年度	学校は小中連携等で、教職員に共通認識を深めている。	い	63.0%																											
	本年度	(1-4) 学校は、小中が連携してとりくんでいる社会や英語の授業等をよいシステムとして効果的に機能させることができている。	あ	31.8%																											
⑤自己診断	<table border="1"> <caption>児童 (Children)</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>前年度 (%)</th> <th>本年度 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あ</td> <td>99.0%</td> <td>68.0%</td> </tr> <tr> <td>い</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>保護者 (Guardians)</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>前年度 (%)</th> <th>本年度 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あ</td> <td>60.0%</td> <td>89.0%</td> </tr> <tr> <td>い</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>教職員 (Teachers)</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>前年度 (%)</th> <th>本年度 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あ</td> <td>63.0%</td> <td>31.8%</td> </tr> <tr> <td>い</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>				評価	前年度 (%)	本年度 (%)	あ	99.0%	68.0%	い	0%	0%	評価	前年度 (%)	本年度 (%)	あ	60.0%	89.0%	い	0%	0%	評価	前年度 (%)	本年度 (%)	あ	63.0%	31.8%	い	0%	0%
評価	前年度 (%)	本年度 (%)																													
あ	99.0%	68.0%																													
い	0%	0%																													
評価	前年度 (%)	本年度 (%)																													
あ	60.0%	89.0%																													
い	0%	0%																													
評価	前年度 (%)	本年度 (%)																													
あ	63.0%	31.8%																													
い	0%	0%																													
⑥改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に授業を受けている児童の感じていることやこうしたシステムのねらいがどの程度児童に伝わっているのか検証してみる必要がある。児童による授業評価等具体策を検討していく。</li> <li>・保護者や児童生徒の意見・評価を聞いていくシステム作りを進める。</li> <li>・とりくみや授業への評価を充実させるため、授業担当者と学級担任の打ち合わせを充実させる。</li> </ul>																														
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、子どもたちの実態をしっかりと把握し、実態に則した学習指導に努めてほしい。</li> <li>・担当者間の話し合い等で改善されてきたところもあるが、指導者は、子どもがやる気を出す細やかな配慮をする努力も必要である。</li> <li>・小学校教員による中学校での数学授業の効果のありようについても確かめておく必要がある。</li> </ul>																														

#### (4) その他

#### 2007 学校自己診断自由記述(保護者)

「自由記述欄」学校教育・家庭教育に関して意見・感想があればご記入ください。

「学習指導」	58%
「学校生活・家庭との連携」	31%
「教育環境」	11%



#### 1、「学習指導に関して」

自由記述の約6割が学力・学習・子どもの教育問題に関する記述で、保護者の高い関心が示されています。学ぶことの楽しさを感じられる教育、子どもが自分に自信を持てるような教育を学校に期待する意見がある一方で、学力の低下が指摘され、ゆとり教育の見直しが論議されるなか、何人かの保護者からは、これからの教育や子どもの学力について不安をいだかれていることがあげられています。

#### 要望例

##### 教科

- ・算数の学習については少人数指導(分割やTT等)をきめ細やかな授業が行われ、わかりやすいと思います(複数)。より一層の工夫やしっかり理解するまでの補習を希望します。
- ・国語教育に力を入れて欲しいです。(複数)
- ・体づくりにも力を入れて欲しいです。(夏休みの水泳指導を含む)
- ・指導要領の改訂にかかわっての不安を感じる。(今後の取り組みについて)

##### 小中連携

- ・(高学年の親からは、)中学の先生には実験を多く取り入れた理科を教えてもらいたいです。
- ・中学に入ってから学習のギャップを少なくするために高学年を準備段階とし、自主勉強ができるように指導して欲しいと思います。(複数)

#### 2、学校生活・連携

3割の方が学校生活や家庭との連携について記述されています。教職員が子どもたちを理解し、支えていること、また食育へのとりくみや 図書室の活動について、そしてそれに期待することなどの意見がありました。また、さらに今以上に学校との関わりを求める意見もありました。

#### 要望例

- ・家庭と学校が共通の認識を持つ事が大切なので、何か具体的な取り組みを通じてつながりを深める事がよいと思います。
- ・ボランティアを募って放課後学習を継続して欲しいと思います。
- ・通知表の生活面の評価のありかたについて疑問に思っています。
- ・担任によって、評価の適切さ、いじめ等への取り組み、親への連絡の有無に差があります。
- ・問題が起きたときの保護者への対応が悪いと思います。
- ・言葉遣いが全般に悪くなっていると思います。学校においても先生の言葉遣いが気になります。
- ・子どもがなんでも相談でき、信頼のおける機関があればと思います。



### 3、教育環境

学校の地理的条件に関するものや、衛生管理や校舎の老朽化に伴うご意見が主なものでした。

#### 要望例

- ・校区が広いので危機管理がむずかしいと思います。
- ・トイレのスリッパを設置してほしいです。
- ・北館トイレの暗さが気になります。改修工事をして欲しいです。
- ・中学校まで同じ仲間なので、安心できる反面、その後広い社会にうまく適応できるか少々不安です。

### 4、自己評価

寄せられた自由記述の分類によれば、学習指導 58%・「学校生活・家庭との連携」が 31%・「教育環境」 11%であった学習指導については、本校自体の取り組みの弱さや、全国学力診断テストの結果・国による教育政策の変容などが背景にあると見られるが、保護者が取り組みを実感できる場合によっては巻き込む、具体的な対応に取り組むことが急務であると考え各委員会で取り組みを検討している。また、生活指導上の問題に対して保護者と意思疎通をはかり連携して対応するということが担任間で差があることがわかった。担任間はもとより学校として全体的で情報の共有と、事実の確認、そして共同で事に当たるという姿勢を明確にしていかなければならない。施設面の要望では予算措置の背景がない現状があるが、トイレのスリッパの設置など出来るところから取り組み継続して町教育委員会へ要望していかなければならない。

### 5、学校関係者評価

学校関係者評価

- ・学校は、寄せられた意見や要望を真摯に受け止め改善に向け努力をしてほしい。また、予算等を伴い学校単独で判断できない案件等についても可能な範囲で情報提供に努めてほしい。
- ・体力づくりについての取り組みの充実に努力をしてほしい。

# 授業評価分析

豊能町立東能勢小学校

1学期授業参観（5月28日（土））人権参観（10月5日（金）12日（金））は**保護者による授業評価アンケート**を実施した。授業内容は次の通りである。

1年1組	算数	いくつといくつ	道徳	ひとりぼっちのライオン（仲間づくり）
2年1組	算数	たしざんのひっさん	道徳	どうしたん 友だちパワー（仲間づくり）
2年2組	国語	お手紙	道徳	どうしたん 友だちパワー（仲間づくり）
3年1組	総合	ナイフで鉛筆削り	総合	介助犬ターシャ（障害者理解）
3年2組	理科	チョウを育てよう	総合	介助犬ターシャ（障害者理解）
4年1組	総合	グループワーク（コラージュ）	道徳	大和川のつけかえ（地域学習）
4年2組	算数	わり算（分割）	道徳	大和川のつけかえ（地域学習）
5年1組	算数	角度（分割）	総合	みんなにやさしいまち（福祉教育）
5年2組	社会	農業	総合	みんなにやさしいまち（福祉教育）
6年1組	算数	立体（導入）	道徳	問題解決の4段階（仲間づくり）
6年2組	算数	立体（導入）	道徳	問題解決の4段階（仲間づくり）

1学期授業参観、人権参観とも各項目において「A とてもそう思う」「B そう思う」が90%越えており、授業内容や授業方法を支持している。

そこで、分析にあたっては「A とてもそう思う」「B そう思う」の割合を見ないわけにはいかない。すると先生に対する評価は甘い、子どもに対しては「聞く」「話す」「理解する」点においては満足しているとは言えない。

また、人権参観については「授業内容が子どもたちに合っていないのでは？」と感じている保護者の感想も届いている。

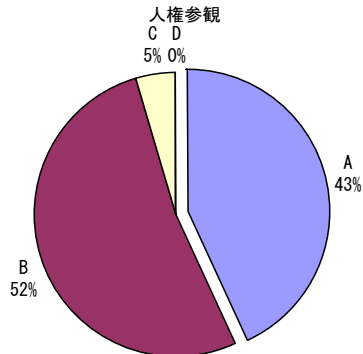
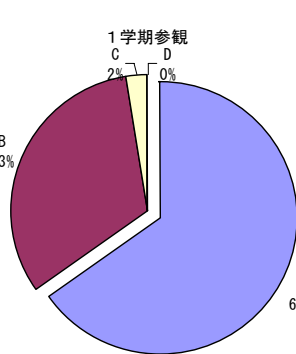
「C あまり思わない」「D 思わない」については、クラスが限られている。授業での子どもの荒れについて、保護者が不満を持っていることが感想に出てきている。

実践交流会（10月31日（水）午後）においては、参加町内、幼保小中の先生方による**同僚評価アンケート**によるものである。授業内容は次の通りである。

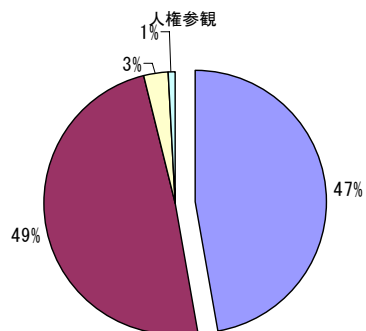
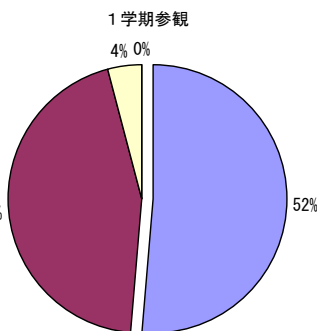
1年1組	道徳	「くりのみ」（2）—2思いやりの心
4年2組	総合	「大水の話」地域の人の立ち上がりに学び、地域への誇りを持つ。
5年2組	総合	「みんなにやさしいまち」障害を持つ方から学び、クラスを見つめる。

各項目において高い評価をいただいている。授業案を練りあげた授業であったので、それは当然であるが、実践交流会のテーマを「つながり」と設定したのに、「子ども同士のつながり」についてA評価は5%しかなかったのは、授業が教師から児童への一方的な場面が多かったからであろう。人権教育カリキュラムの定着という面では非常に有意義な研究会であったが、授業内容の改善はさらに必要であることが明らかになった。

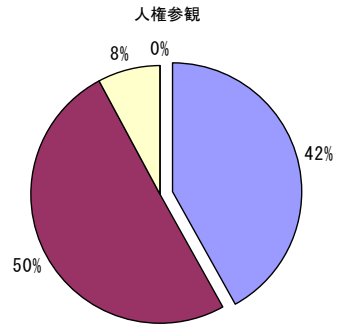
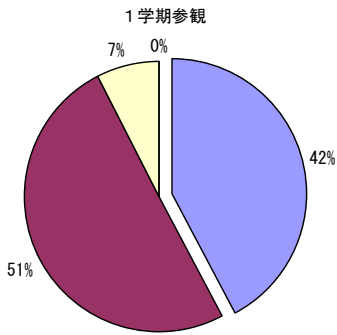
子ども達は楽しく授業に参加していましたか。



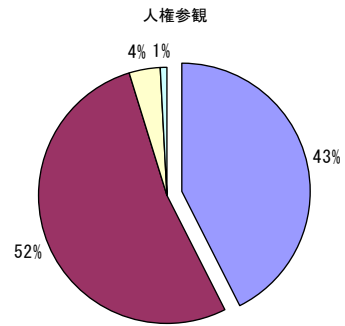
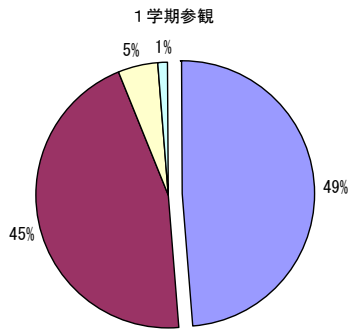
子ども達は教師や友達の話をしっかり聞いていましたか。



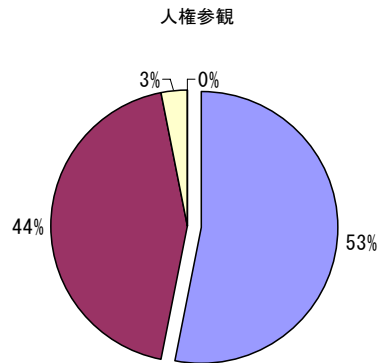
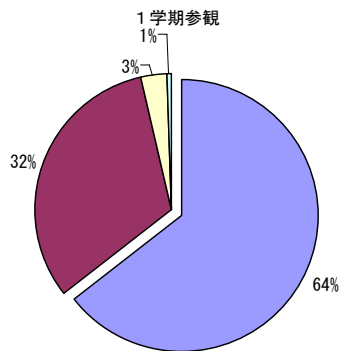
子ども達は自分の考えをしっかりと発表していましたか。



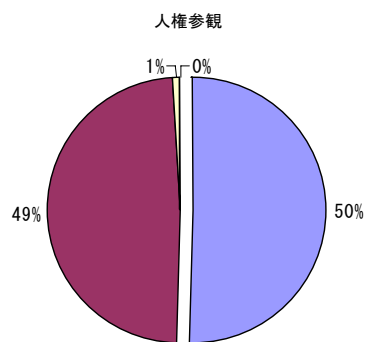
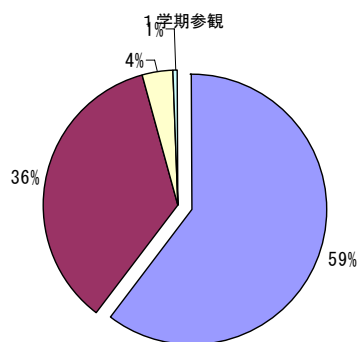
子ども達は今日の授業内容がよく分かっていましたか。



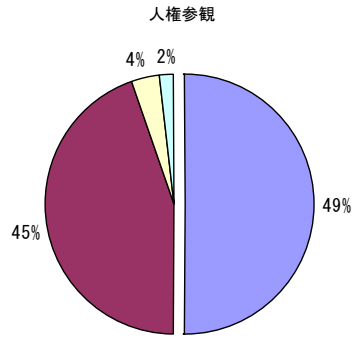
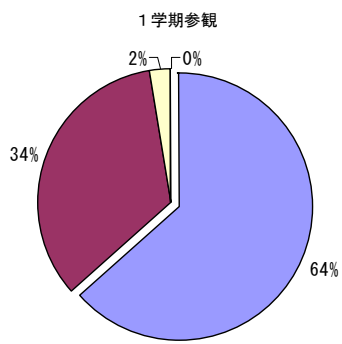
教師の説明や指示は分かりやすかったですか。



教師は子どもたちのがんばりを見つけてほめたり励ましたりしていましたか。

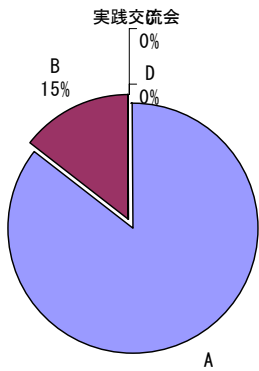


今日の授業は工夫されていましたか。

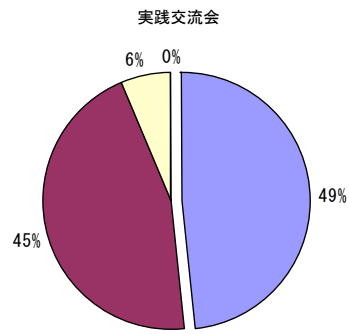


## 町内小中学校教師による授業評価（資料）

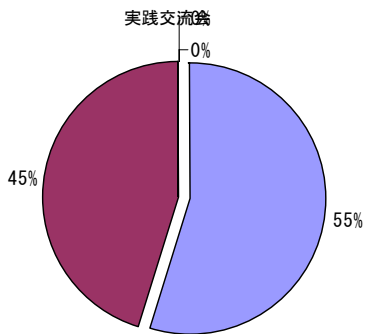
子どもたちは教師や友だちの話をしっかり聞いていた。



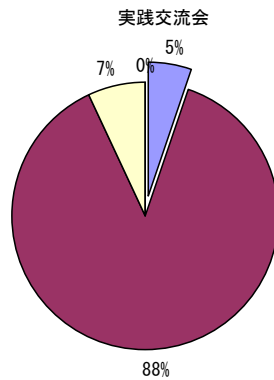
子どもたちは自分の考えをしっかりと発表していた。



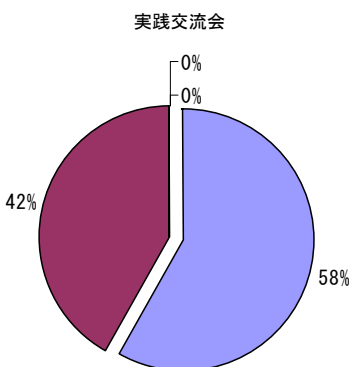
子どもたちは今日の授業内容がよく分かっていた。



子どもたち同士のつながりが感じられた。



教師の説明や指示はわかりやすかった。



教師は子どもたちのがんばりを見つけ、ほめたり励ましたりしていた。

